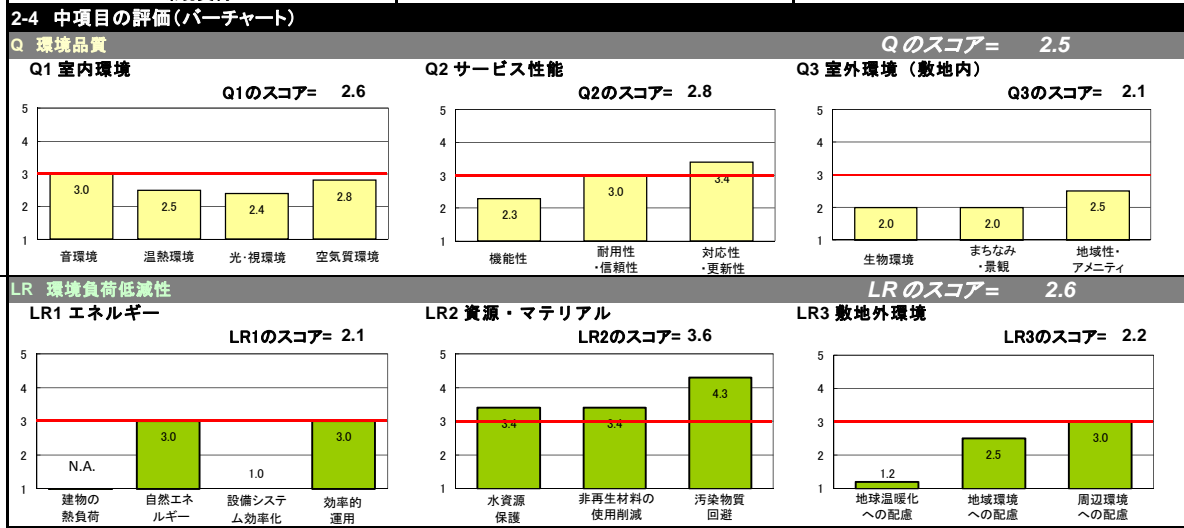
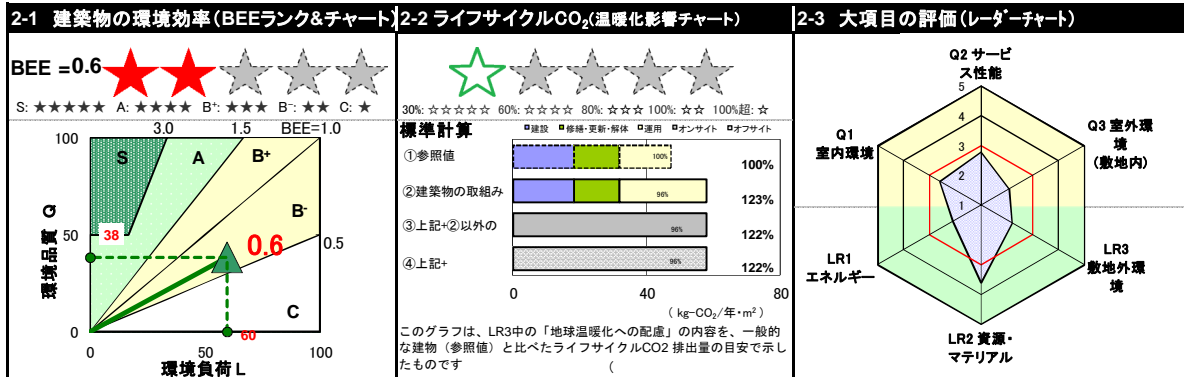


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東海化学工業第1工場	階数	地上2F
建設地	豊田市本徳町東屋敷859-9他7筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	28 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,160 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2014年5月14日
敷地面積	8,306.42 m ²	作成者	リブ設計・坂部
建築面積	1,451.54 m ²	確認日	2014年5月14日
延床面積	2,809.80 m ²	確認者	リブ設計・坂部



3 重点項目

<h4>① 地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.2</p>	<h4>③ 敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>42.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	42.4 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	42.4 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>② 資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④ 地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

① 地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

② 資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③ 敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④ 地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} (\text{建築面積及び附属物面積})}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積} (\text{法定面積})}$ × 100

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境								2.6
1 音環境								3.0
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル						3.0	-	
2 設備騒音対策						-	-	
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能				サッシ遮音性能T-2	5.0	0.60	3.0	-
2 界壁遮音性能					3.0	0.40	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	-
1.3 吸音								
					1.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境								2.5
2.1 室温制御								
1 室温					2.5	0.50	-	-
2 負荷変動・追従制御性					3.0	0.38	3.0	-
3 外皮性能					1.0	0.25	3.0	-
4 ゾーン別制御性					3.0	0.38	-	-
5 温度・湿度制御					-	-	-	-
6 個別制御					-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮					-	-	-	-
8 監視システム					-	-	-	-
2.2 湿度制御								
					2.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式								
					3.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境								2.4
3.1 昼光利用								
1 昼光率					1.8	0.30	-	-
2 方位別開口					1.0	0.60	3.0	-
3 昼光利用設備					-	-	3.0	-
					3.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア					3.0	0.30	-	-
2 昼光制御					-	-	3.0	-
3 映り込み対策					3.0	1.00	3.0	-
3.3 照度								
					2.0	0.15	3.0	-
3.4 照明制御								
					3.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境								2.8
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質					3.0	0.50	-	-
2 アスベスト対策					3.0	1.00	3.0	-
3 ダニ・カビ等					-	-	-	-
4 レジオネラ対策					-	-	-	-
4.2 換気								
1 換気量					3.0	0.30	-	-
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	3.0	-
4 給気計画					-	-	-	-
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視					2.0	0.20	-	-
2 喫煙の制御					1.0	0.50	-	-
					3.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能								2.8
1 機能性								2.3
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性					2.3	0.40	-	-
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.33	3.0	-
3 バリアフリー計画					1.0	0.33	3.0	-
					3.0	0.33	-	-
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観					2.3	0.30	-	-
2 リフレッシュスペース					3.0	0.33	3.0	-
3 内装計画					3.0	0.33	-	-
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計					2.5	0.30	-	-
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-
3 衛生管理業務					2.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性								3.0
2.1 耐震・免震								
1 耐震性					3.0	0.31	-	-
2 免震・制振性能					3.0	0.48	-	-
					3.0	0.80	-	-
2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20	-	-
1 躯体材料の耐用年数				②	3.0	0.33	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.09	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.08	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-
					3.0	0.23	-	-

2.4 信頼性				3.0	0.19	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		②		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31	-	-	
1 階高のゆとり			1階階高6.55m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.13	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	2.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	2.1
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				1.0	0.43	-	-	1.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				1.0				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、省水型機器	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		可変間仕切壁	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			屋根断熱グラスウール	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.2
1 地球温暖化への配慮		①		1.2	0.33	-	-	1.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	●		自転車及び自動車駐車場確保、複数導入路	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	●			3.0	0.33	-	-	
2 振動	●			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				1.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	1.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 クリーンルーム設置
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 通常の空調方式、ブラインドによるグレア対策<クリーンルーム設置
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 生産設備管理を容易にする為の広さを確保
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑化率25.6%
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LEDを極力使用
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマ付水栓器具
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事業相当量の自転車及び自動車駐車スペースの確保と導入路の複数化
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。